

日本博総合推進会議（第4回）

議 事 要 旨

○日 時：令和7年3月25日（火）17：55～18：15

○場 所：官邸4階大会議室

○有識者：齋藤委員、島谷委員、橋本委員、片岡委員（御欠席）

○政府等：石破内閣総理大臣（議長）、林内閣官房長官（議長代理）、
青木内閣官房副長官（議長補佐）、城内内閣府特命担当大臣（クール
ジャパン戦略）、あべ文部科学大臣、橋内閣官房副長官、松本外
務大臣政務官、加藤経済産業大臣政務官兼内閣府大臣政務官、国定
国土交通大臣政務官、佐藤内閣官房副長官、阪田内閣官房副長官補、
小林内閣広報官、都倉文化庁長官、合田文化庁次長

1 開 会

2 議 事

（1）「日本博2.0」について

（2）意見交換

3 総理発言

4 閉 会

（司会：青木内閣官房副長官）

1 開会

冒頭、青木内閣官房副長官から、以下のとおり説明があった。

○委員の皆様方には、忌憚のない御意見を頂戴したいと考えているので、御協力のほどよろしくお願ひしたい。

○片岡委員におかれては、本日御欠席となる。

○この会議の公開・非公開の扱いや資料の取扱い等については、参考資料3のとおりとさせていただきたいので、御了承願ひたい。

2 議事

(1) 「日本博2.0」について

都倉文化庁長官より、資料1に基づき、「日本博2.0」について説明があった。

(2) 意見交換

次に、意見交換が行われた。主な発言は以下のとおり。

【齋藤委員】

- 私は、地域のデザインや復興、また、万博のディレクターもやらせていただいている、今日、これだけミyakミyakがいるのはうれしい限りである。私がいろいろな地域に入って感じることは、日本の各地域の文化や食、工芸などに非常に関心が高い海外からの人たちが今まで以上に多くなったということである。だが、日本国内の我々がそのことに気づけていないのが課題ではないかと思う。日本博で継続的に行われてきた政策の中で、地域の地層をもう一度掘り起こして、そこにある資源を文化活動として継続的に取り組んでいくことは、非常に価値があると私は思っている。
- それが結果として、先ほど文化庁長官がおっしゃったように、海外への発信や、観光政策に繋がっていくこともあると思う。今までも、東京オリンピック・パラリンピックを契機に、文化庁が日本博を立てられたが、来月から開催される大阪・関西万博以降においても、この日本博というのは、なかなかすぐに経済効果として表れるのは難しいかもしれないが、ぜひ、御支援いただきたいと思っている。
- そしてもう一点、昨今、文化という意味では、いろいろな省庁がそこに注目し、観光庁であったり経産省であったり国交省が、様々な形で御支援をされていると思うが、それが一つの大きな文脈となって地域を支え、地域創生につながるように、ぜひ、こういった活動の継続もご検討いただけるようお願いしている。

【島谷委員】

- 日本博については、しばらくお手伝いをさせていただいている。東京オリンピック・パラリンピックで勢いがついて、現在の大阪・関西万博に、今、流れ込もうとしており、各地においてその成果が出てきているように思う。
- 現在、私は、皇居三の丸尚蔵館の館長を仰せつかっているが、皇居の東御苑にも大変多くの外国の方が入苑している。外国の方のほうが情報をよく知っているようである。日本人の方に情報が十分に伝わっていないのではないかと

と知っている。

- 今日、インバウンドの方が大都会を中心に集まっており、その弊害も言われているが、この日本博を進めることにより、地方の活性化につながるということを非常に私は期待もし、実際、そのような動きになっている。
- 今年は、総理の地元の鳥取県の県立美術館が開館し、年末には書の展覧会も開催される。外国の方にも、鑑賞が難しいと言われる書にしても訴えていくことが一番大切で、最近、私は「書は見なさい」「絵を読みなさい」と言っている。絵が作られている背景を考えるとより分かる。書は、読めないから鑑賞しないというのはもったいない。書の中には美しい線やバランス、余白等があるので、最近では、外国の方もじっくり見て下さっている。
- 皇居三の丸尚蔵館のことばかり言って申し訳ないが、王室コレクションの交流というのが、今後、非常に重要になってくるので、この取組にも心を配っていきたいと思う。国際交流、これは本当に重要であるので、日本博がここで終わるのではなくて、継続的に、今後も支援していただきたいと思っている。

【橋本委員】

- この日本博には2017年から、恐らく委員の中で一番長く関わってきた。間にコロナ禍を挟んで、まさか2025年大阪・関西万博まで続くとは思わなかったものがここまで成長してきたことを、まずは非常にうれしく思う。
- もちろん、非常に地味な話だけれども、課題もあったと思っている。プログラムの事後の検証を行うことや、その結果を翌年度以降のプログラムに反映させる。これらを必ずしも確実にできていなかったのではないかと思うところもある。それだけに、まだ、これからやることも残っているという言い方もできると思う。
- それから、「日本の美と心」を掲げてこの日本博を進めてきたけれども、ステレオタイプな、画一的な価値観ではない、プログラムの数だけ多様な「日本の美と心」があったということが示せたのは非常によかったと思っている。
- 齋藤委員からもお話があったとおり、美術、工芸、学術、デザイン、観光と、日本の文化領域に埋まっている資源というのは、枯渇することも奪われることもない、本当にロングテールの巨大なリソースだと思っている。それが、いつどのような形で経済効果を発揮するのかというのはなかなかコントロールしがたいところはあるけれども、文化の対外発信、パブリック・ディプロマシーの施策について、できれば今後は省庁を横断する形で続いていっていただくことを私としては願っている。複数の省庁の事業に重なるところ、文脈が混乱して見えるところがあるように思うが、外から見たときは、日本の

やっていることとして一体であるように思われる。それが混乱しないよう、一つの強力なコンセプトを打ち出せるような形で、今後、継続することを願っている。

【片岡委員（青木内閣官房副長官代読）】

- 毎年3月末に開催されるアートバーゼル香港のために出張しており、本日欠席で申し訳ない。この機会には、アジアに限らず世界各地からアート関係者が香港に集まり、美術館から街なかまで様々な企画が行われている。近年は、数多くの国際展やアートフェアなど大型文化芸術系事業が世界各地で開催されており、1月はシンガポール、3月は香港、9月はソウルといったように、アジア圏内でも特定の時期に事業を集中する傾向にある。
- 「日本博2.0」について考えると、訪日外国人旅行者が2024年は過去最高の3600万人を記録し、日本の文化は伝統芸術からマンガ、アニメ、音楽、食文化などが、これまでにない熱量で世界から注目されている。
- こうした中では、「日本博2.0」の採択事業の中でも主要事業、大型事業について、特定の季節に集約し、訴求力をさらに強化することを検討してはどうかと思う。
- グローバル化の中では、まさに文化芸術の国際間競争が起こっており、日本文化の戦略的な発信が求められている。
- 「日本博2.0」を大阪・関西万博で終わらせることなく、また、現在、これほど日本文化が注目されている機会を喪失することなく、持続的な日本文化の発信を御検討いただきたい。

【あべ文部科学大臣】

- 「日本博2.0」については、文化庁を中心に、関係省庁からの御協力も得ながら、創造力あふれる様々な企画を全国各地で展開してきた。
- 文部科学省としては、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする大阪・関西万博の舞台のみならず、日本全国を文化の力で華やかに彩り、新たな未来を創造していく一翼を担いたいと考えている。
- 本日、皆様よりいただいた御意見を踏まえ、大阪・関西万博と「日本博2.0」の成功に向けて、担当大臣として全力を尽くしてまいりますので、引き続き御協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

【城内内閣府特命担当大臣（クールジャパン担当）】

- 近年、日本のアニメやマンガなどは世界的な人気の本格化している。作品に登場した場所や原作者の出身地などを訪問する「ゆかりの地」巡りが盛んに

なっており、アニメ、マンガなどのコンテンツが日本への興味を喚起する入口になっている。

- このため、内閣府においては、今回の万博の機会を捉え、4月30日から5月2日までの3日間、万博の会場において、アニメや漫画などのコンテンツの魅力と、全国各地にある「ゆかりの地」の魅力を発信するイベントを開催する。
- こうした取組を通じて、アニメやマンガなど、我が国の優れたコンテンツへの関心を高めるとともに、これを入口として、高付加価値旅行者を中心に地方への来訪を促進するなど、コンテンツ産業の振興と地方創生に向けた好循環につなげてまいる。そして、この取組は、「日本博2.0」の取組との相乗効果も期待されるものである。
- 引き続き、関係省庁と連携しながら、万博の成功に貢献できるよう、しっかりと準備を進めてまいる。

【加藤経済産業大臣政務官兼内閣府大臣政務官】

- 大阪・関西万博の開幕までいよいよ19日となった。先週、私も大阪に出張し、大阪ヘルスケアパビリオンの開館式に出席するとともに、万博の会場内を視察してきた。それぞれのパビリオンでは、最先端の技術や各国の文化を楽しみながら知ることができる素晴らしいものになっている。会場はいよいよ完成間近であり、来場者をお迎えする準備が着実に進んでいるものと実感した。
- 大阪・関西万博は、文化芸術を含む日本の魅力を発信する絶好の機会である。世界が新たな日本を発見する場として必ず成功させなければならない。
- 「日本博2.0」により支援された伝統芸能や障害者芸術など、催事が万博会場内でも実施されることとなり、また、東北6県の夏祭りや徳島県の阿波踊りなど、数多くの各地の文化催事も加わって、万博会場の雰囲気盛り上げる、様々な文化芸術の発信の用意が出来てきた。
- また、経済産業省としては、我が国が誇る伝統工芸品の展示、職人の実演、能登半島地震からの復興のシンボルとなる「輪島塗大型地球儀の展示」、迎賓館における内外の若手アーティスト作品の展示、日本のゲームタイトルを活用したeスポーツ大会の実演や展示などといった形で、魅力ある地方文化や日本のコンテンツを発信していく。
- 次のステージとしては、万博会場内の来場促進とともに、実際にその地域を訪れて、いわゆる本物を見ていただくことが目的であり、このためにも、万博を契機とした地方誘客の取組を関係省庁とともにしっかりと進めてまいる。

【松本外務大臣政務官】

- 文化外交を推進する外務省としても、「日本の美と心」、まさに本物の日本文化を感じていただける事業として、この日本博を重視してきたところである。
- 日本文化の魅力を正しく海外の人々に伝えることで、各国・地域における親日感を醸成し、数多くの日本の「友人」を得ることは、外務省としては非常に重要な責務だと考えている。この責務を果たしていくため、外務省は、在外公館、国際交流基金等の海外拠点を通じ、海外において日本の多様な魅力を発信しているところである。
- いよいよ大阪・関西万博まで、あと19日となった。外務省としても、開幕に向けて、在外公館において、天皇誕生日記念レセプションの機会や広報事業を活用して機運醸成と万博のアピールに取り組んでいるところである。多くの要人の訪日が想定され、また、インバウンドの大幅増も予想される。この素晴らしい機会に、海外の幅広い層に日本文化の魅力を直接アピールすべく、努力してまいりたい。

【国定国土交通大臣政務官】

- 昨年の訪日外国人旅行者数は、約3700万人と過去最高を更新し、インバウンド需要は好調な状況である。さらに、来月から開催される大阪・関西万博は、日本の魅力を世界に発信していく上で極めて重要な機会であると考えている。
- 文化芸術は、欧米をはじめとする外国人旅行者からも関心が高い観光資源であり、自然、食などととも、内外の観光客を魅了する「キラークンテンツ」の一つである。
- 国土交通省では、これまでも日本政府観光局を通じて、「日本博2.0」について、海外に向けたプロモーションを行ってきたところである。
- 今後とも引き続き、文化庁とも協力をし、日本博を通じた日本の文化芸術の魅力発信についてさらに取り組んでまいる。

3 総理発言

(報道関係者入室)

石破内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

大阪・関西万博の開幕まで、あと19日となった。万博は、世界各国から多くの来訪者にお越しいただき、日本の魅力を発見していただく絶好の機会である。

この機会に、世界各国の皆様には日本の地方の歴史・文化・伝統に関心を持っていただき、多くの方々に地方まで足を延ばしていただけるよう、これまでの日本博の取組の成果を存分に発揮していただきたい。

本年は、大阪・関西万博に向けて令和5年度から始まった「日本博2.0」の総仕上げの年である。文化庁を中心に関係省庁が連携して、これまでの取組を検証した上で、日本博の新たな展開の検討も含め、その有形・無形のレガシーを一過性のものとすることなく、持続可能なものとする工夫や取組を進めるようお願い申し上げます。

(報道関係者退室)

4 閉会

(以上)